

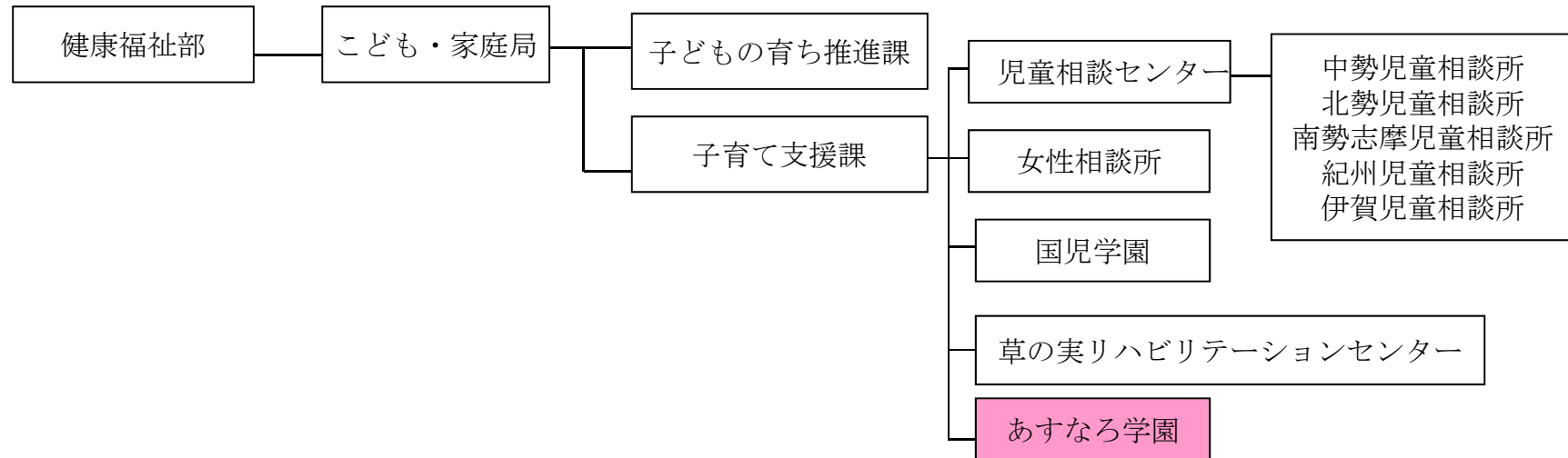
発達障害者支援関係報告会2014年2月24日

「個別の指導計画を保育から始め、教育に引き継ぐための仕掛け(ツールと人材育成方法)」

～「CLMと個別の指導計画」を活用して～

三重県立小児心療センターあすなろ学園
こどもの発達総合支援室 市町支援課
中村みゆき

三重県の組織



○小児心療センターあすなろ学園

医療型入所施設であり、児童精神科の病院である。(外来診療、入院治療、医療連携、**市町支援**)

新規外来患者 349名

外来患者 17,708名

延べ入院患者 24,912名

(80床)

(平成25年3月31日現在)

* 三重県の人口 1,844千人

18歳未満

312千人

出生数 15千人

気になる子は増加傾向？

知的発達には遅れはないものの
学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた子の割合

【小学校】

・ 1 年生	9 .	8 %
・ 2 年生	8 .	2 %
・ 3 年生	7 .	5 %
・ 4 年生	7 .	8 %
・ 5 年生	6 .	7 %
・ 6 年生	6 .	3 %
	7 .	7 %

【中学校】

・ 1 年生	4 .	8 %
・ 2 年生	4 .	1 %
・ 3 年生	3 .	2 %

4 . 0 %

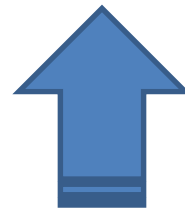
6 . 3 % → 6 . 5 %

文科省 H 2 4 年 1 2 月

CLMでの早期支援が必要！！

なぜ、あすなろ学園（医療機関）が 市町支援を？

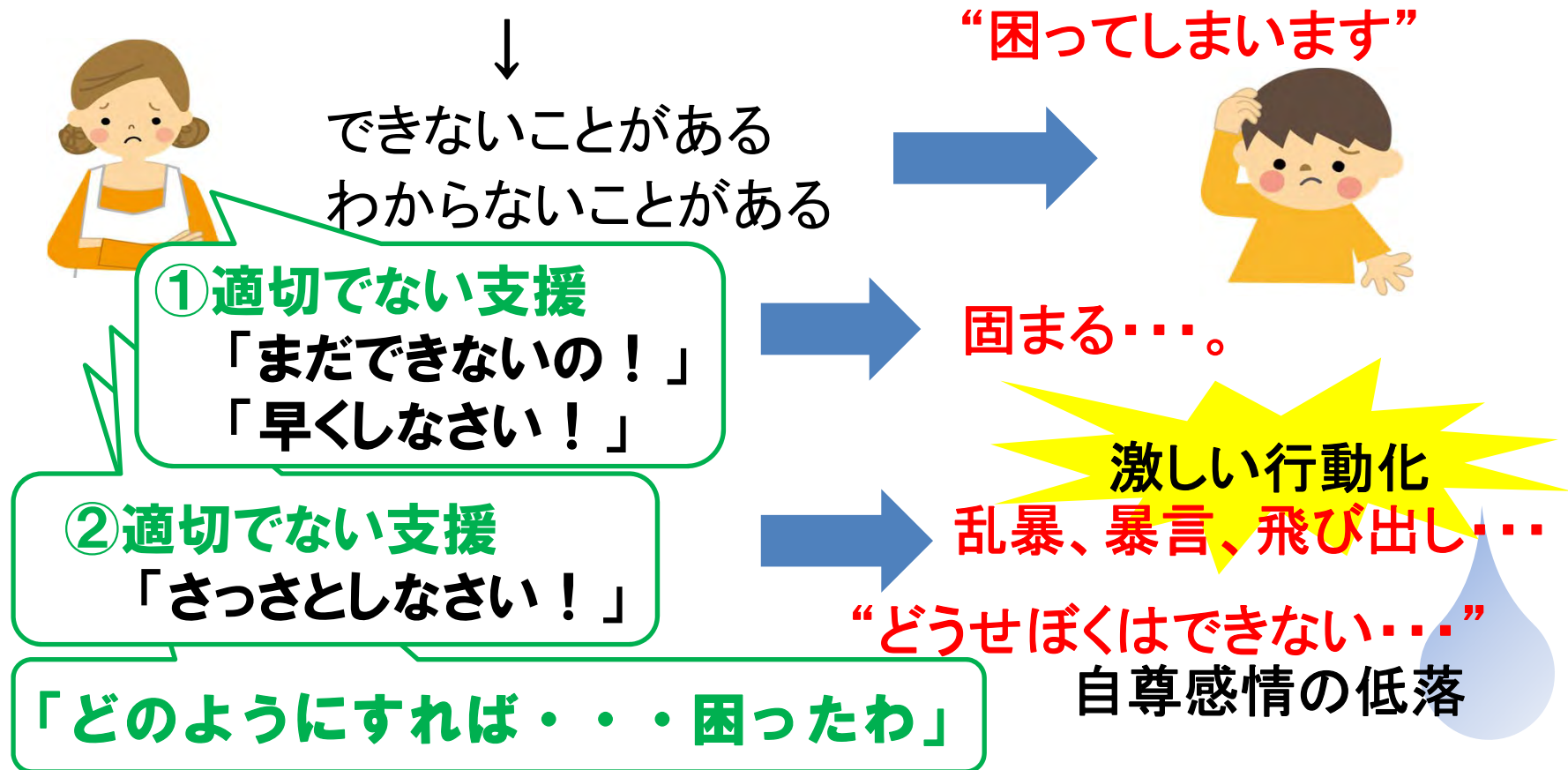
子どもの気になる行動に対し、二次障がいが発現する前に、保育所・幼稚園・学校など（敷居の低い所）で適切な早期支援を途切れなく行うことによって問題行動を予防し、成長が期待できる



あすなろ学園の外来・入院治療、療育などの知識・技術を市町の、保健（保健師）・福祉（保育士）・教育（教員）等に普及

気になる子の保育・教育

- ・子どもは先生に好かれたい、認められたい
- ・子どもはあそびや勉強が、できるようになりたい



⇒担任の子どもの理解とスキルアップが必要

- 通常保育・教育の中に気になる子どもが増えている
- 担任がどのように保育・教育してよいかかわからない



日常の保育・教育場面を活用した
気になる姿を観察するツール

CLM



子どもの自尊感情の育成や回復ができる
担任のための支援のシナリオ

個別の指導計画

「CLMと個別の指導計画」

【CLM】

CLM(チェック・リスト・イン三重)は、保育所・幼稚園に通う気になる子の行動等を観察し、個別の指導計画を作成するために、「三重県あすなろ学園」で開発されたアセスメントツールです。

・CLMの活用においては「個別の指導計画」作成が必須となっています。

「CLMと個別の指導計画」

【CLM】

- 対象：保育所・幼稚園等に通う“気になる子”
- CLMの種類：「3歳児クラス用」
「4歳児クラス・5歳児クラス用」
- 判断のめやす：4段階
 - 1：全くない （全くみられない）
 - 2：あまりない （週1～2回）
 - 3：少しある （週3～4回）
 - 4：よくある （毎日見られる）
- 診断名をつけたり障がいを持定したりするための使用は禁止

「CLMと個別の指導計画」

【個別の指導計画】

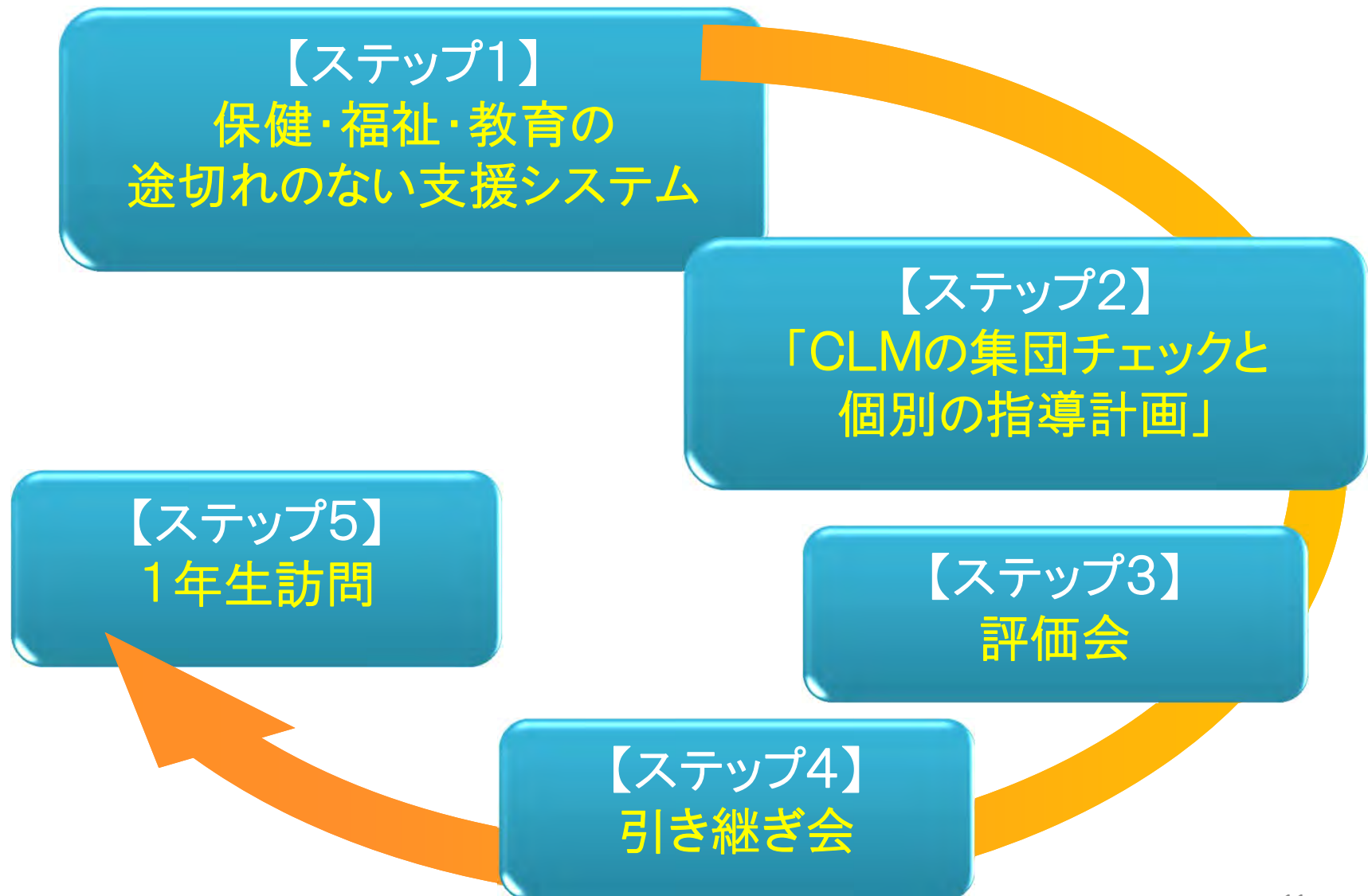
- 子どもの自尊感情の育成や回復が可能になるような
担任のための支援のシナリオ
- 治すのではなく、育てるプログラム
- 作成手順の明確化
 - ①CLMのチェックと項目の選定
 - ②エピソード作成と選定
 - ③要因分析
 - ④目標の設定(2週間以内で成功できる目標)
 - ⑤クラス環境の整え
 - ⑥クラス全体の支援
 - ⑦個別の支援

「CLMと個別の指導計画」という「ツール」 に含まれる要素

1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け

2. 人材育成

1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け





1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け

【S1】

保健・福祉・教育の
途切れのない支援システム

【S1】保健・福祉・教育の途切れのない支援システム

I 発達総合支援室・機能の設置

保健・福祉・教育等部局の一元的組織：ワンストップ窓口

II みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修

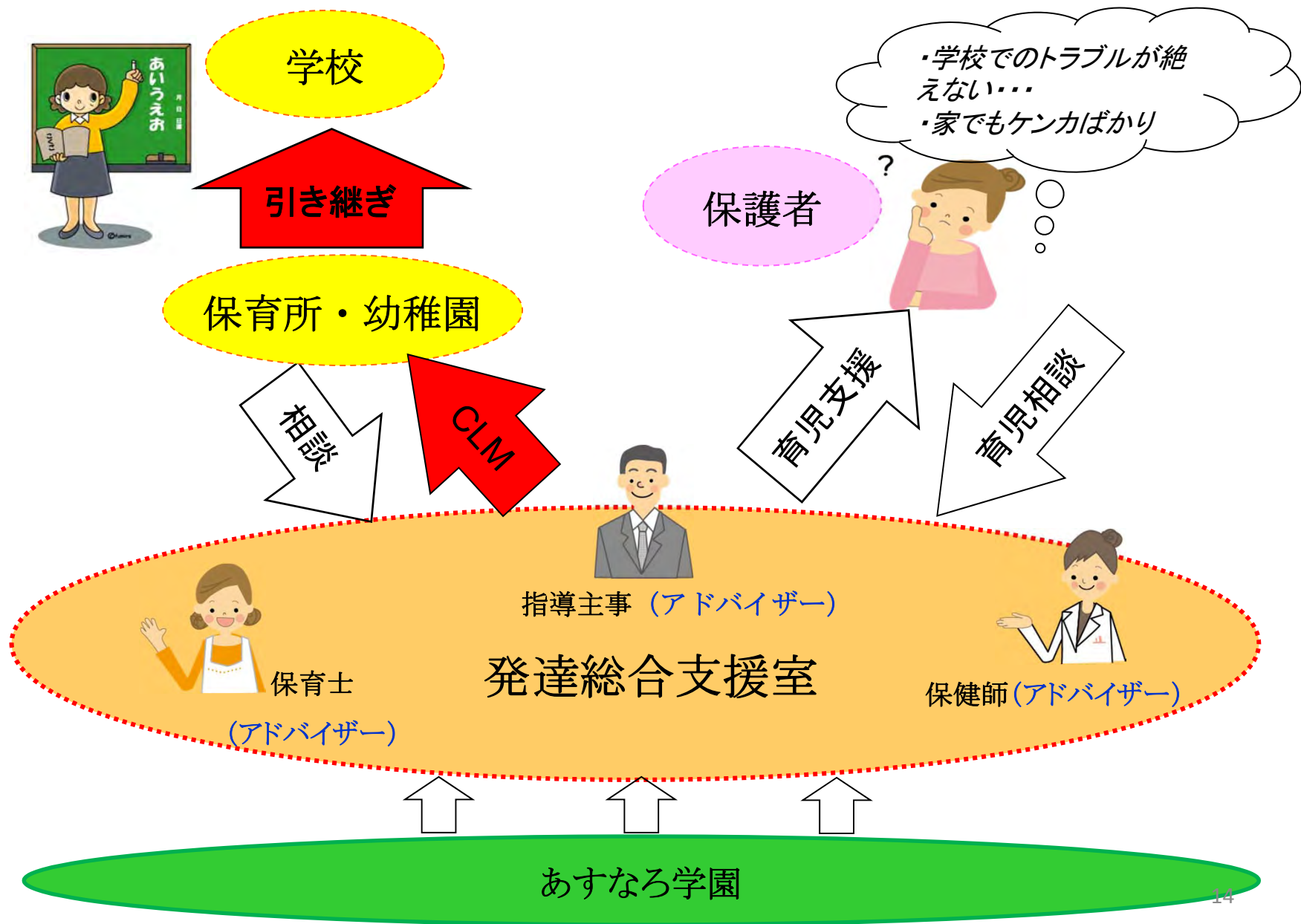
市町の核となる人材育成（保健師・保育士・教員）

1年間のあすなろ学園研修の後、市町の発達総合支援室に配置

III「CLMと個別の指導計画」による保育所・幼稚園での 早期支援

保健師・保育士・教員及び担当部署職員の人材育成と支援の引き継ぎ

【S1】保健・福祉・教育の途切れのない支援システム



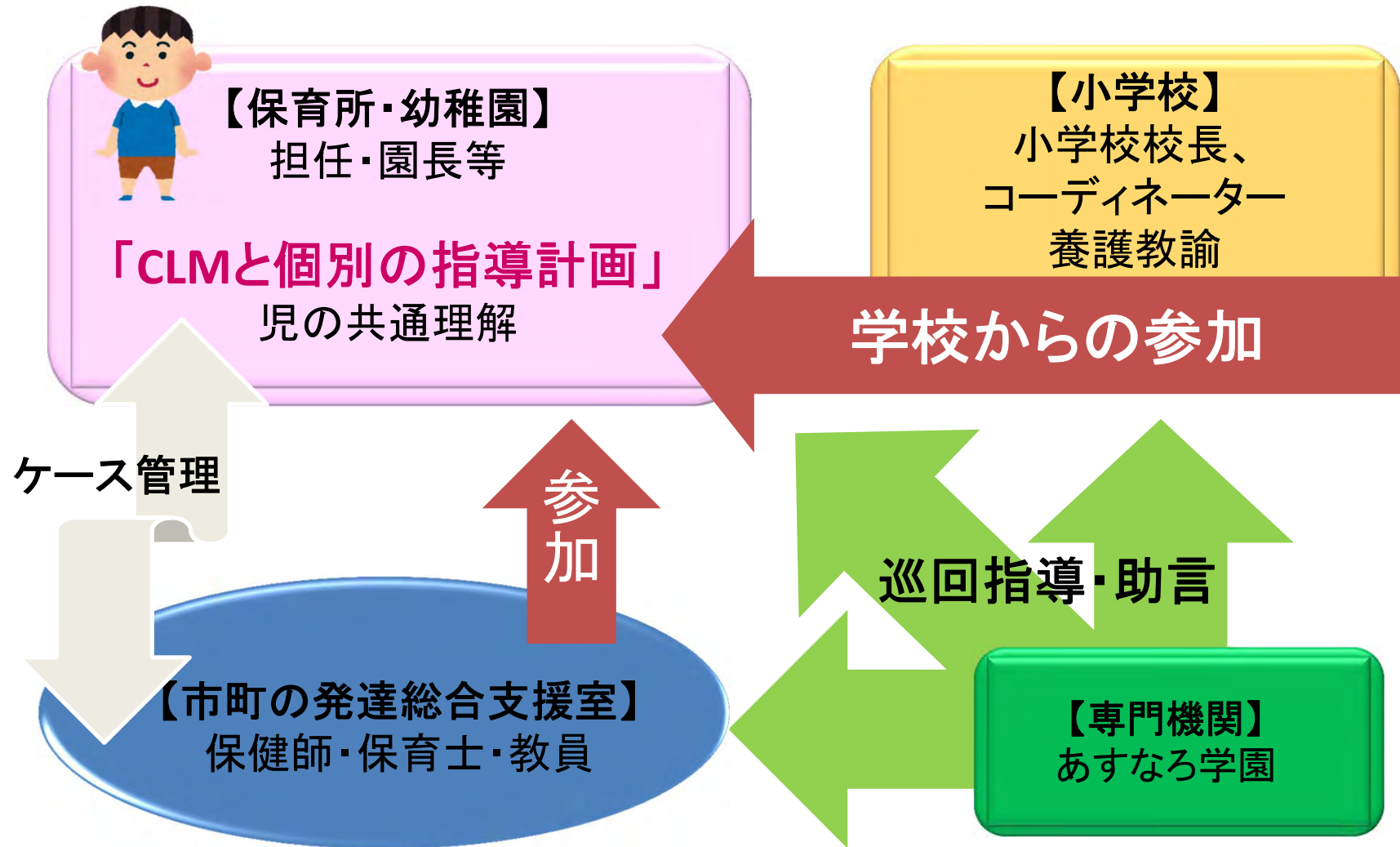


1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け

【S2】

「CLMの集団チェックと
個別の指導計画」

「就学前年に保育所等での『CLMと個別の指導計画』 作成に保健・福祉・教育担当者が参加」



【S2】「CLMの集団チェックと個別の指導計画」の作成

【事前準備】 担任がチェックを行い、個別の指導計画 No1. No2の記入

【当日】

CLMの集団チェックと個別の指導計画検討会

<参加者：保健・福祉・教育>

- *発達総合支援室（保健師・保育士・**教員**）
- *保健センター：保健師 *児童福祉課：行政（保育士）
- ***教育委員会：行政（指導主事）**
- ***校長、コーディネーター**

<CLMの実施>

- *観察時間：9：30～10：30
- *観察場面：チェックされやすい場面
 - ・椅子取りゲームや制作など課題保育
 - ・自由保育

<個別の指導計画検討会>

- *時間：10：30～12：00
- *チェック項目の集計→項目の絞り込み→指導計画作成
- *作成：要因や気持ち・目標
具体的指導方法

【S3】評価会

<参加者>

検討会参加者

<評価内容>

- ・実施した結果
どうであったか
- ・実施回数、成功率
- ・次の目標

事例:TOM



TOMの姿



【よいところ】

- ・ブロックや虫とりが大好き
- ・先生と遊ぶと落ちついて、楽しめる
- ・優しいところもあり、お手伝いを進んでしてくれる

【気になるところ】

- ・思い通りにならないとイライラして物を投げ、先生に注意されると外に飛び出す
- ・ブロックや虫取りなど同じ遊びばかりする
- ・制作やリズムの時、できないと外に出ていく
- ・困ったことがあっても、伝えられない(助けを求められない)

クラスの様子

【よいところ】

- ・明るく、元気な子どもが多い
- ・年少さんには優しい

【気になるところ】

- ・クラス全体が騒がしい
- ・落ち着いて話を聞くことが苦手な子が多い
- ・TOMのような行動をする子がクラスに5名位いる

No1：プロフィール

名前： <u>TOM</u> (男・女) H〇年△月生 (5歳 5ヶ月)	◎園名 SAKURA 園
◎家族構成 父 母 姉 祖母	◎園の住所・連絡先 住所： <u>ASUNARO</u> 町 ☎： <u>000-111-222</u> FAX： <u>000-111-223</u>
◎成育歴 (歩行開始時期、発語など現在までの経過) 歩行開始： <u>12</u> か月 発語： <u>8</u> か月 (ブーブー、バー) ことば： <u>1</u> 才 (まんま、だい (ちょうだい))	入所年月日： <u>H△</u> 年 <u>〇〇</u> 月 <u>□</u> 日 転園年月日： 年 月 日 クラス名 (年少・年中・年長) (23名) (男:13名 女:10名) 担任名： <u>MORI</u> 複数担任の場合 (〇) 名 本児のみの加配保育士名 (有・無) 本児を含む複数の児の加配保育士 (有・無1対 名)
◎健康診査 ・ 1歳6か月 よく動く 指摘なし ・ 3歳 折り紙をしたがらなかった 特に指摘なし	◎CLMで4点とチェックされた項目 ・ CLM 3歳児クラス 担任が「4:よくある」とチェックした項目を挙げる ・ CLM 4歳児クラス 5歳児クラス用 <u>2. 3. 7. 8. 10. 11. 12</u>
◎受診している医療機関、療育機関等	
◎福祉の利用 (手帳・支援費・コーディネーター登録等)	

No2 : エピソード

名前：TOM	市町名（ASUNARO）園名（SAKURA）クラス名（TORI）
＊担任の願い 部屋から出て行くことなくみんなと一緒に過ごしてほしい	＊好きなこと・興味のあること・よいところ 虫とり、ブロックが好き。担任と二人で遊んでいるときは嬉しそうで、落ちついて手伝いができる。
① 担任が「4:よくある」とチェックした項目を挙げる	2. 片づけができない ・好きなブロック遊びをしていると終われない。 ・虫だけは大事に虫かごに入れるが、虫取り網は園庭に放ってある。 3. 先生の指示を聞いて行動できない ・「ハサミとノリを持ってきましょう」と言っても、ウロウロしている。 ・「遊戯室にいきます」と声をかけても、虫かごを見てからでないと動けない。 7. 落ち着きがなく、よく動く ・お着替えの時、ウロウロしており、「早くしなさい」と言われると近くにいる友だちを叩く。 ・給食の時、好きなものだけを食べると立ち歩く。 8. どんな場面でもよく喋る ・朝の会や行事の時など、話を聞かなければいけない時に、喋りだす。 ・絵本の読み聞かせの時、大好きな虫が出てくると喋りだす。
② 具体的な場面や子どもの様子などエピソードを例示する	10. 友だちとトラブルをよく起こす ・大好きなブロック遊びや図鑑を見ているときに、友だちが何度も「かして」と声をかけると、イライラして投げる。 ・大好きな虫を他児が触ろうとすると、割って入る。 11. 集団活動に最後まで参加できない ・制作やリズムの時、できないと外に出ていく。 ・クラス全員でサッカーをする時、自分にボールが回ってこない、と、集団から出ていく。 12. 同じあそびしか行わず、あそびが発展しない ・ブロック、積み木、虫とり、滑り台ばかりをしている。 ・ブロックあそびでは、いつも同じ形の車を作っている。

22

(4歳児クラス・5歳児クラス用)

	項目	担任				
1	登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい	3				
2	片づけができない	4				
3	先生の指示を聞いて行動できない	4				
4	初めて取り組むことに参加できない	3				
5	自分の思いを言葉で表現できない	3				
6	文字、数字、	2				
7	落ち着きがない	4				
8	どんな場面で	4				
9	日課、習慣、場所、時間、道順などを変更しにくい	3				
10	友だちとトラブルをよく起こす	4				
11	集団活動に最後まで参加できない	4				
12	同じあそびしか行わず、あそびが発展しない	4				
13	あそびが次々と移っていく	3				
14	ごっこあそびができない	3				
15	制作活動（描画、折り紙、工作など）をしたがらない	3				
16	ハサミ、鉛筆、箸などの操作がうまくできない	3				23

担任が
CLMをチェックする

集計表 (4歳児クラス・5歳児クラス用)

	項目	担任	福祉	校長	保健師	合計
1	登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい	3				
2	片づけができない	4			4	8
3	先生の指示を聞いて行動できない	4	4			8
4	初めて取り組むことに参加できない	3				
5	自分の思いを言葉で表現できない	3				
6	文字、数字、	2				
7	落ち着きがない	4	4	4	4	16
8	どんな場面で	4	4		4	12
9	日課、習慣、場所、時間、道順などを変更しにくい	3				
10	友だちとトラブルをよく起こす	4			4	8
11	集団活動に最後まで参加できない	4	4	4	4	16
12	同じあそびしか行わず、あそびが発展しない	4	4		4	12
13	あそびが次々と移っていく	3				
14	ごっこあそびができない	3				
15	制作活動（描画、折り紙、工作など）をしたがらない	3				
16	ハサミ、鉛筆、箸などの操作がうまくできない	3				24

集団で
CLMをチェックする

5月 「CLMの集団チェックと個別の指導計画」作成（1回目）



「CLMと個別の指導計画」

【個別の指導計画】

《気になる子の支援とクラス全体の支援》

- 気になる子の支援は、
- クラスの他の子どもへの支援とバランスを保ちながら
- 日常の園生活のなかで、
- 育ち合いを軸として、適切な支援を行うことを目的にしています。

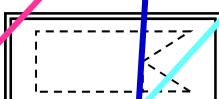
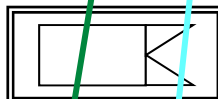
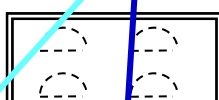
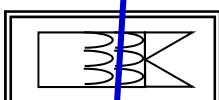
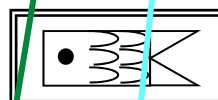


クラス作りと他の気になる子への支援も同時に解決

《適切な支援》

- すべての子どもにわかりやすい保育
- 規律のある保育

No3：プラン

名前： TOM （5歳5ヶ月）		ASUNARO 町 SAKURA 園				
絞り込まれたチェック項目 （11）集団活動に最後まで参加できないエピソード 制作やリズムの時、できないと外へ出ていく		要因や気持ち 衝動性が高い？ 見通しが持てない？ 不器用？ 集中時間が短い？ 困った時に助けを求められない？				
目標 制作活動の途中に部屋から出ず、最後まで取り組むことができるようになる						
期間	具 体 的 な 指 導 方 法		結果・評価			
4/15 ～ 4/30 (3回)	<クラス環境の整えとクラス全体の支援> ・机の上は整理して物を置けるようにする。  ・グループ分けは、衝動性の高い子との組み合わせは避ける。 ・工程表を使って説明する。 ・わからない時は、手を挙げて「手伝って」と言うように説明する。 ・「手伝って」と言えたらほめる。	<個別の支援>		月日	○×	特記事項
		・1回につき2工程ずつ進める教材を準備する				
		①点線をなぞる ②はさみで切る				
		 				
		③点線をなぞる ④はさみで切る				
		 				
		⑤うろこを貼る ⑥目をかく				
		 				
		・担任がそばで100%～90%支援をする。徐々に支援を引いていく。				
		・わからない時は、「手伝って」と言えるように促す。				
・制作活動の時間は15分程にする。残りの時間は15分程昆虫の本を読む。出来たら大好きな昆虫のシールを貼る。						
・毎回できたら誉める。						
			評価日			
			5月1日（水）15:00～			

27

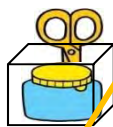
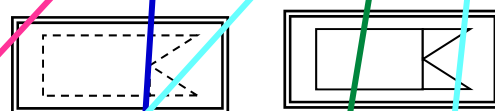
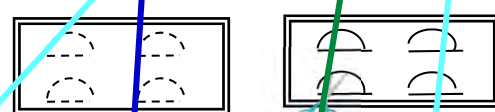
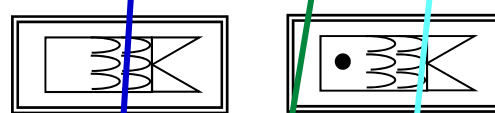
1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け
【S3】
評価会

【参加者：保健・福祉・教育】

- * 発達総合支援室（保健師・保育士・**教員**）
- * 保健センター：保健師
- * 児童福祉課：行政
- * **教育委員会：行政（指導主事）**
- * **校長、コーディネーター**

●計画が終了する毎に行う

No3：プラン

名前： TOM （5歳5ヶ月）		ASUNARO 町 SAKURA 園					
絞り込まれたチェック項目 （11）集団活動に最後まで参加できないエピソード 制作やリズムの時、できないと外へ出ていく		要因や気持ち 衝動性が高い？ 見通しが持てない？ 不器用？ 集中時間が短い？ 困った時に助けを求められない？					
目標 制作活動の途中に部屋から出ず、最後まで取り組むことができるようになる							
期間	具 体 的 な 指 導 方 法		結果・評価				
4/15 ～ 4/30 (3回)	＜クラス環境の整えとクラス全体の支援＞ ・机の上は整理して物を置けるようにする。  ・グループ分けは、衝動性の高い子との組み合わせは避ける。 ・工程表を使って説明する。 ・わからない時は、手を挙げて「手伝って」と言うように説明する。 ・「手伝って」と言えたらほめる。		＜個別の支援＞ ・1回につき2工程ずつ進める教材を準備する ①点線をなぞる ②はさみで切る  ③点線をなぞる ④はさみで切る  ⑤うろこを貼る ⑥目をかく  ・担任がそばで100%～90%支援をする。徐々に支援を引いていく。 ・わからない時は、「手伝って」と言えるように促す。 ・制作活動の時間は15分程にする。残りの時間は15分程昆虫の本を読む。出来たら大好きな昆虫のシールを貼る。 ・毎回できたら誉める。		月日	○×	特記事項
	4/15	○	最後までできた				
	4/20	○	最後までできた				
	4/30	○	最後までできた				
	3/3 成功 継続か新規計画か						
評価日			5月1日（水）15:00～				

30

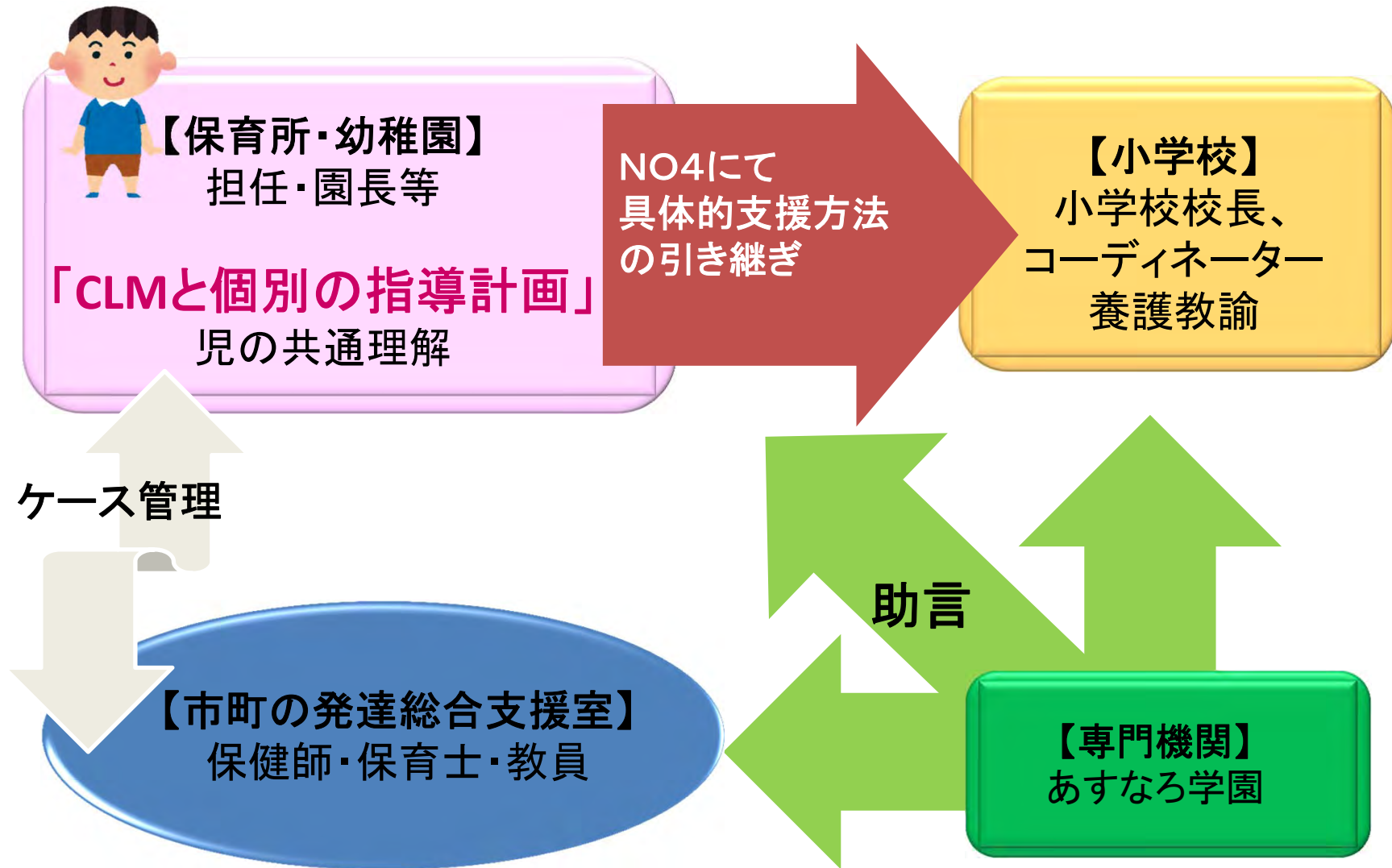


1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け

【S4】

引き継ぎ会

「個別の指導計画を小学校に引き継ぐ」



NO4 引き継ぎ資料

名前:TOM SAKURA 園 ⇒ YURI 小学校			
項 目	目標としたこと	支援した手立て	現在の様子及び引き継ぎ事項
基本的な生活習慣	・片づけができるようになる	・イス一つから始めて、片づける物を増やした。	・クラス全体への声かけで、周りを見て、片づけるようになった
理解	・初めて取り組む活動に、参加できるようになる	・事前に絵図を使って、活動の説	・事前に担任と予習をすることで、不安
行動	・朝の会の時、担任の話を最後まで喋らずに聞けるようになる	1年生の担任は、1学期の図工の時間はこのような支援からスタートする	
社会性	・「かして」「いいよ」のやりとりができるようになる	・「かして」「いいよ」のやりとりをした。 ・うまく言えた姿をほ	・「かして」と言えるようになった。
活動・あそび	制作活動の途中で部屋から出ず、最後まで取り組むことができるようになる	・最初は15分くらいの取り組みから始めた。 ・点線なぞりからスタート、「手伝って」を定着、余った時間は興味のある本などを見て待つようにした。	・わからないとき、できないとき「手伝って」と言えるようになり、最後まで取り組めるようになり、飛び出さなくなった。
手指動作	・はさみで曲線が切れるようになる	・担任と個別に関わり、直線を短く切ることから始め、紙を支える手の動かし方を教えた。	・教材を工夫することで、短い曲線が切れるようになった。
指導のポイント	・事前に絵図を使って説明し、ロールプレイをすることで、安心して集団に参加できる。 ・できそうな小さな目標から少しずつ取り組むことが有効。 ・集団の中でも、「手伝って」と言えるように、担任と信頼関係を構築する。		

さらに 具体的な引き継ぎ

【参加者】

保育園担任、1年生担任、本人、保護者

【時期】春休み

【方法】

- 子どもの目の前で支援アイテムを引き継ぐ
- 握手やハイタッチでキーパーソン(担任)の移行

No.4：支援の引継書

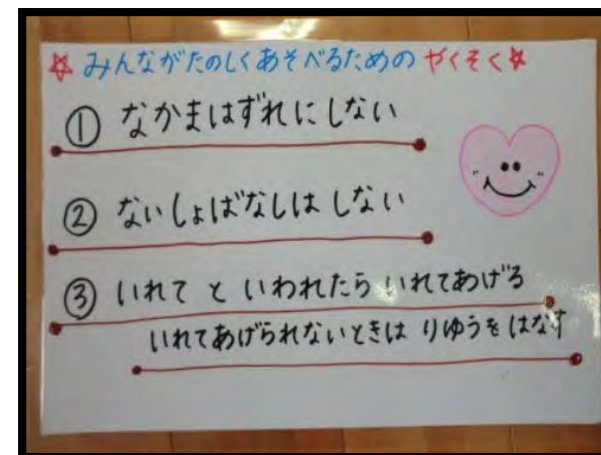
名前： A [] 保育所・幼稚園→ []		
項目	目標としたこと	支援
〈基本的生活習慣〉 食事、排泄、着脱、準備・片付け等		度でのDVD (TV) の視聴が多く、本児は視聴時間が短い時は指示が入りやすく落ち着いて生活できている。「約束」を活動の前に言い続けていかないと忘れてしまい、意識し続けられない。
〈ことば〉 ことばの意味理解のつながり、喋り		な言葉は知っている。(特におもしろい言葉は入りやすい) しかし、遊びや生活に必要な言葉をその時々で使用できることもある。知っている＝理解にはつながっていない言葉と意味を教える必要がある。
〈対人関係〉 友だち関係、大人数でのコミュニケーションの取り方		込みや勘違いから根に持ちやすい。終わったトラブルは解決したときに「もう終わったことだから気にしない」ことをしり伝える。過敏性があり友達を必要以上に触りたくなるた相手が困っていることを伝える。
〈社会性〉 マナー、善悪の判断、褒め言葉、悪口、暴言暴力等		ちのコントロールが出来ない時は、相手が不快になる言葉度をとる。本児の気持ちを代弁しながら気持ちを落ち着かせ、言葉で気持ちを伝えられるようにする。
〈行動面〉 集団行動への適応、落ち着きなくよく動く、衝動性がある等	・落ち着いて活動に参加する。	葉を使った時は褒め、本児が褒められて「嬉しい」という気持ちが感じられる場面を多く設けた。
〈あそび(自由時間)〉 ルールの理解、遊びの持続、次への切り替えなど	・遊び方(道具の使い方、など)を覚える。	遊び方(道具の使い方、など)を覚える。
本児にとっての有効な支援方、配慮など	・『自分もできる!』という気持ちで活動する。 ・生活の流れ、活動の流れを伝える。 ・相手の気持ちが分からないときは「～くんすこし待って」など伝える。 ・褒める時は「～くんすこし待って」など伝える。	るため、分かりやすい説明と同時に目で見て分かるよう視覚支援があると良い。

場面に応じた言葉の使い方がわかる
支援グッズが有効

見通しが持てる支援が有効

記入日： 25年 2月 日記入者 ()

「遊びの約束カード」を 小学校へ引き継ぐ



保育園の担任から小学校の教頭先生へ
「みんなが楽しく遊べるための
約束カードです」

教頭先生「小学校に貼っておき
ます。守れますか？」
園児「はい！」





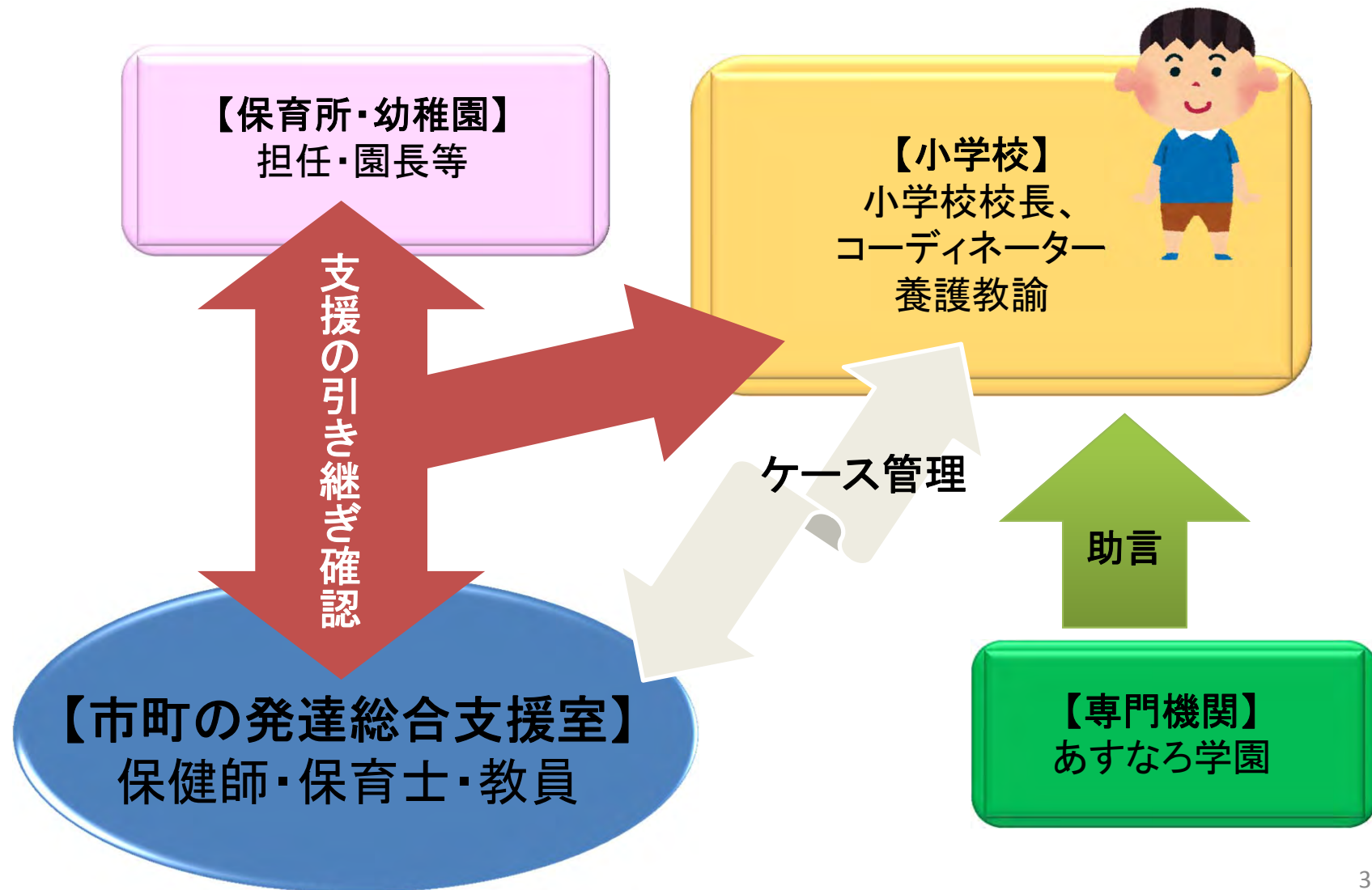
1. 保育から始め教育に引き継ぐための仕掛け

【S5】

1年生訪問

「1年生訪問」(翌年春)

授業参観&校内研修会(校内委員会)



1年生の授業の様子



子育て支援グループと
保育園の先生で、
1年生訪問をしました。

教室の入り口には保育園
で使った「遊びの約束
カード」



2. 人材育成

「目利き」

- CLMチェック
- エピソード
- 要因分析
- 要因と支援の相関

「腕利き」

担任のための
支援のシナリオ

(4歳児クラス・5歳児クラス用)

	項目	担任				
1	登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい	3				
2	片づけができない	4				
3	先生の指示を聞いて行動できない	4				
4	初めて取り組むことに参加できない	3				
5	自分の思いを言葉で表現できない	3				
6	文字、数字、	2				
7	落ち着きがない	4				
8	どんな場面で	4				
9	日課、習慣、場所、時間、道順などを変更しにくい	3				
10	友だちとトラブルをよく起こす	4				
11	集団活動に最後まで参加できない	4				
12	同じあそびしか行わず、あそびが発展しない	4				
13	あそびが次々と移っていく	3				
14	ごっこあそびができない	3				
15	制作活動（描画、折り紙、工作など）をしたがらない	3				
16	ハサミ、鉛筆、箸などの操作がうまくできない	3				41

「目利き」
CLMをチェックする

No2：エピソード

名前：TOM	市町名（ASUNARO）園名（SAKURA）クラス名（TORI）
*担任の願い 部屋から出て行くことなくみんなと一緒に過ごしてほしい	*好きなこと・興味のあること・よいところ 虫とり、ブロックが好き。担任と二人で遊んでいるときは嬉しそうで、落ちついて手伝いができる。
① 担任が「4:よくある」とチェックした項目を挙げる	2. 片づけができない ・好きなブロック遊びをしていると終われない。 ・虫だけは大事に虫かごに入れるが、虫取り網は園庭に放ってある。 3. 先生の指示を聞いて行動できない ・「ハサミとノリを持ってきましたよ」と言ってもウロウロしている。 ・「遊戯室にいきます」と声をかけると、虫かごを見てからでないと動けない。 10. 友だちとトラブルをよく起こす ・大好きなブロック遊びや図鑑を見ているときに、友だちが何度も「かして」と声をかけると、イライラして投げる。 ・大好きな虫を他児が触ろうとすると、割って入る。
② 具体的な場面や子どもの様子などエピソードを例示する	7. 落ち着きがなく、よく動く ・お着替えの時、ウロウロしておきかえさせられると近くにいる友だちを指差す。 ・給食の時、好きなものだけを食べて歩く。 8. どんな場面でもよく喋る ・朝の会や行事の時など、話を聞かずに喋り出す。 ・絵本の読み聞かせの時、大好きな虫が出てくると喋り出す。
	「目利き」 エピソードを書く 日常保育の中での姿をCLM項目に従って詳細に観察する エピソードから目標を導き出すことも狙い ・ブロックあそびでは、いつも同じ形の車を作っている。

集計表 (4歳児クラス・5歳児クラス用)

	項目	担任	福祉	校長	保健師	合計
1	登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい	3				
2	片づけができない	4			4	8
3	先生の指示を聞いて行動できない	4	4			8
4	初めて取り組むことに参加できない	3				
5	自分の思いを言葉で表現できない	3				
6	文字、数字、	2				
7	落ち着きがない	4	4	4	4	16
8	どんな場面で	4	4		4	12
9	日課、習慣、場所、時間、道順などを変更しにくい	3				
10	友だちとトラブルをよく起こす	4			4	8
11	集団活動に最後まで参加できない	4	4	4	4	16
12	同じあそびしか行わず、あそびが発展しない	4	4		4	12
13	あそびが次々と移っていく	3				
14	ごっこあそびができない	3				
15	制作活動（描画、折り紙、工作など）をしたがらない	3				
16	ハサミ、鉛筆、箸などの操作がうまくできない	3				43

集団で
CLMをチェック

「絞り込まれたチェック項目とそのエピソードから 要因や気持ちを推察」

【チェック項目】 (11) 集団活動に最後まで参加できない

【エピソード】 ・制作やリズムの時、できないと外に出ていく

【要因や気持ち】

- ①衝動性が高い？
- ②見通しが持てない？
- ③不器用？
- ④集中時間が短い？
- ⑤困ったときに助けを求められない？
- ⑥活動後の待ち時間？



「要因と支援の相関関係」

- ①衝動性が高い→テンションが上がる子との距離をとる
- ②見通しが持てない→全工程がわかる手順表
- ③不器用→分かりやすく、取り組みやすい教材、90%支援
- ④集中時間が短い→制作時間を短くする
- ⑤困ったときに助けを求められない→「せんがう」
言える
- ⑥活動後の待ち時間→好きな絵本を見て



「目利き」
要因と支援の相関
“根拠のある支援”

【目標】 制作活動の途中に部屋から出ず、最後まで取り組むことができるようになる

「個別の指導計画」の構造

(担任のための支援のシナリオ＝腕利き)

1. クラス環境の整え
2. クラス全体の支援
「集団力動の活用」「育ち
3. 個別の支援

「腕利き」

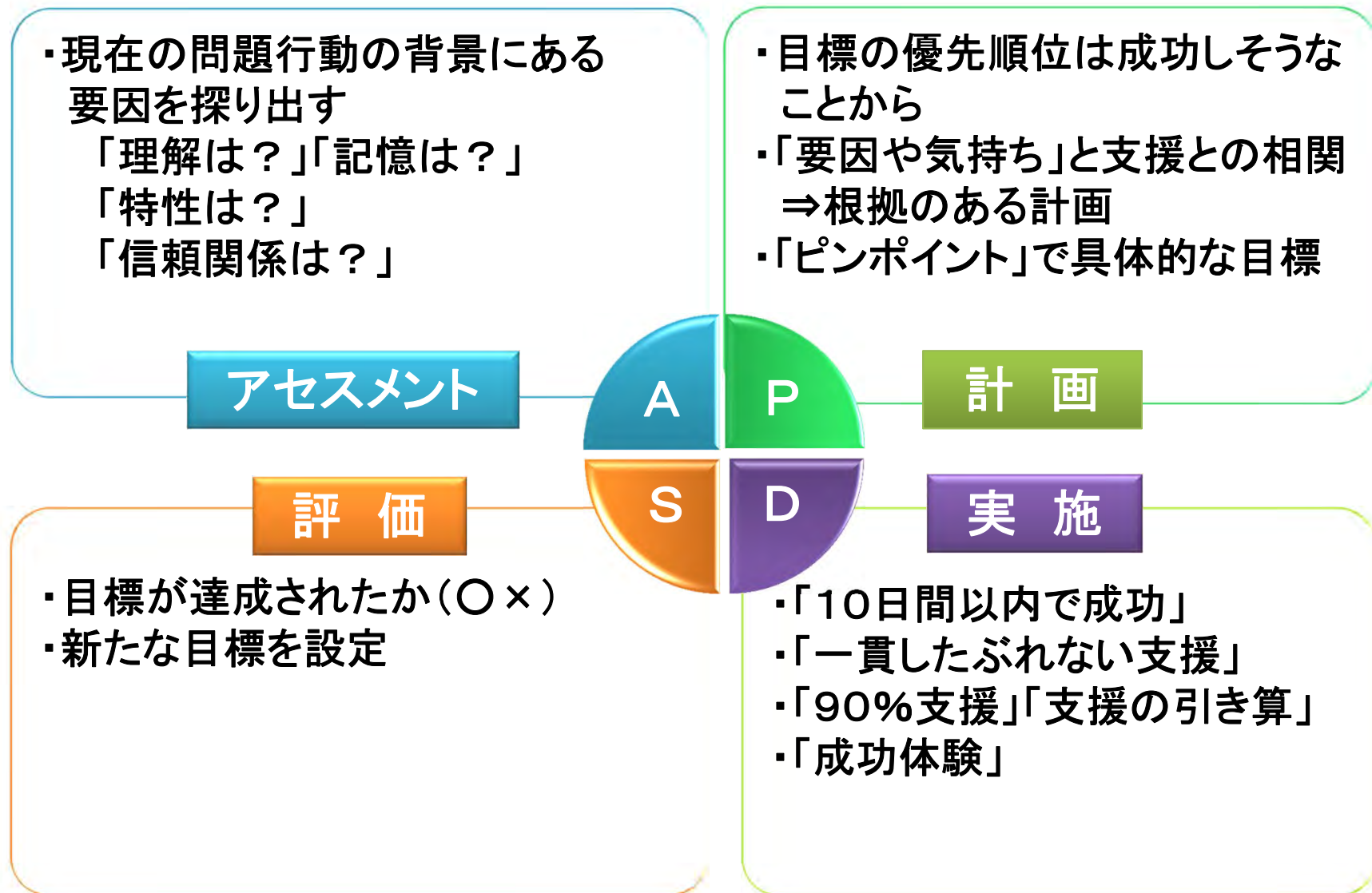
適切な保育・教育とは

『すべての子どもに分かりやすく
規律のある保育・教育』

No3：プラン

「目利き」 CLMチェック エピソード 目標設定		ASUNARO 町 SAKURA 園																												
要因や気持ち 衝動性が高い？ 見通しが持てない？ 不器用？ 集中時間が短い？ 困った時に助けを求められない？		「目利き」 要因																												
目標 制作活動の途中で部屋から出ず、最後まで取り組むことができるようになる																														
期間	具 体 的 な 指 導 方 法		結果・評価																											
4/15 ～ 4/30 (3回)	<クラス環境の整えとクラス全体の支援> ・机の上は整理して物を置けるようにする	<個別の支援> ・1回につき2工程ずつ進める教材を準備する ①点線をなぞる ②はさみで切る	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>○×</th> <th>特記事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	月日	○×	特記事項																								
月日	○×	特記事項																												
「腕利き」 「担任のための支援のシナリオ」 環境の整え・クラス全体の支援・個別の支援をシナリオ通りに実行																														
・わからない時は、手を挙げて「手伝って」と言うように説明する。 ・「手伝って」と言えたらほめる。		・担任がそばで100%～90%支援をする。徐々に支援を引いていく。 ・わからない時は、「手伝って」と言えるように促す。 ・制作活動の時間は15分程にする。残りの時間は15分程昆虫の本を読む。出来たら大好きな昆虫のシールを貼る。 ・毎回できたら誉める。																												
評価日 5月1日（水）15:00～			47																											

個別の指導計画の要点



一般的な個別の指導計画と 「CLMと個別の指導計画」 の違いについて



校内で使用している 個別の指導計画（例）

名前	年 組	平成 年 月		
子どもの様子	の指示が、時間がかかり、判断がついたり、読めない。漢字を覚えるのが難しい。漢字を覚えにくい。			
長期目標	の思い] いけるか。			
	・場の状況に応じて、行動することができる。 ・2年生で習う漢字を定着させる。			
学 習	短期目標	具体的な支援の内容	A B C	評価
	・漢字テストで、8割とることができる。	・放課後に、個別で補充学習を行う。 ・50問のテスト前には、レベル1～レベル4まで、順に覚えさせる。	B	・漢字のまとめのテストでは、92点、96点をとることができた。 ・毎日の漢字練習やなぞしなど、最後まで取り組んだ。 ・しかし、記憶の持続が難しい。
目標を決め、そのまま支援の内容を考える				
身体	・朝の支度を時間内にすることができる。	・朝することを構造化して掲示する。 ・できているときに本人に向けて出す合図を決めて、評価する。 ・終わったら、できることを伝える。	C	・切り替えが難しく、声をかけることができないと、30分ぐらい行動が滞っていることがある。 ・評価が見える形で示すようにしていきたい。
社会性	・わからない時や、困ったときに教師に気持ちを伝える事ができる。 ・ろうかや教室で静かに過ごすことができる。	・学期ごとに、個別の指導計画の作成。 ・学期ごとに、評価。 ・通常学級の支援の必要な児童在籍している児童について作成。		

できていない姿を
思い浮かべて……

なんとなく、
こうしてみると
いいかなあ……

児童の
全体的な様子

いろいろな目標を考える……

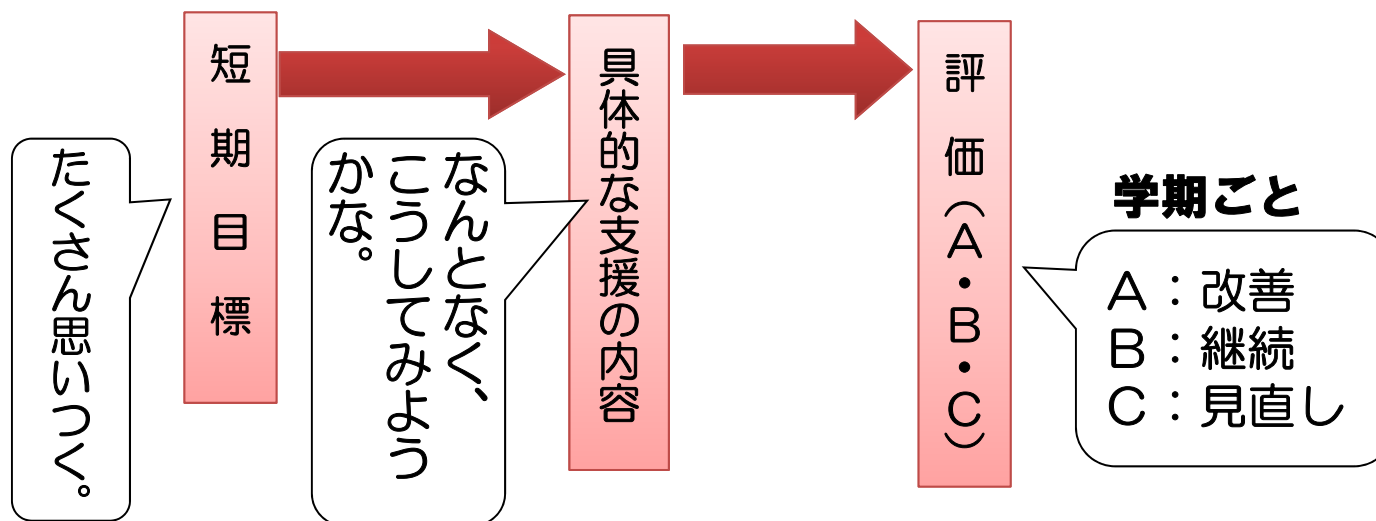
目標を決め、そのまま支援の内容を考える

要因や気持ちは記入されない

- ・学期ごとに、個別の指導計画の交流会を開催。
- ・学期ごとに、評価。
- ・通常学級の支援の必要な児童と、特別支援学級に在籍している児童について作成している。

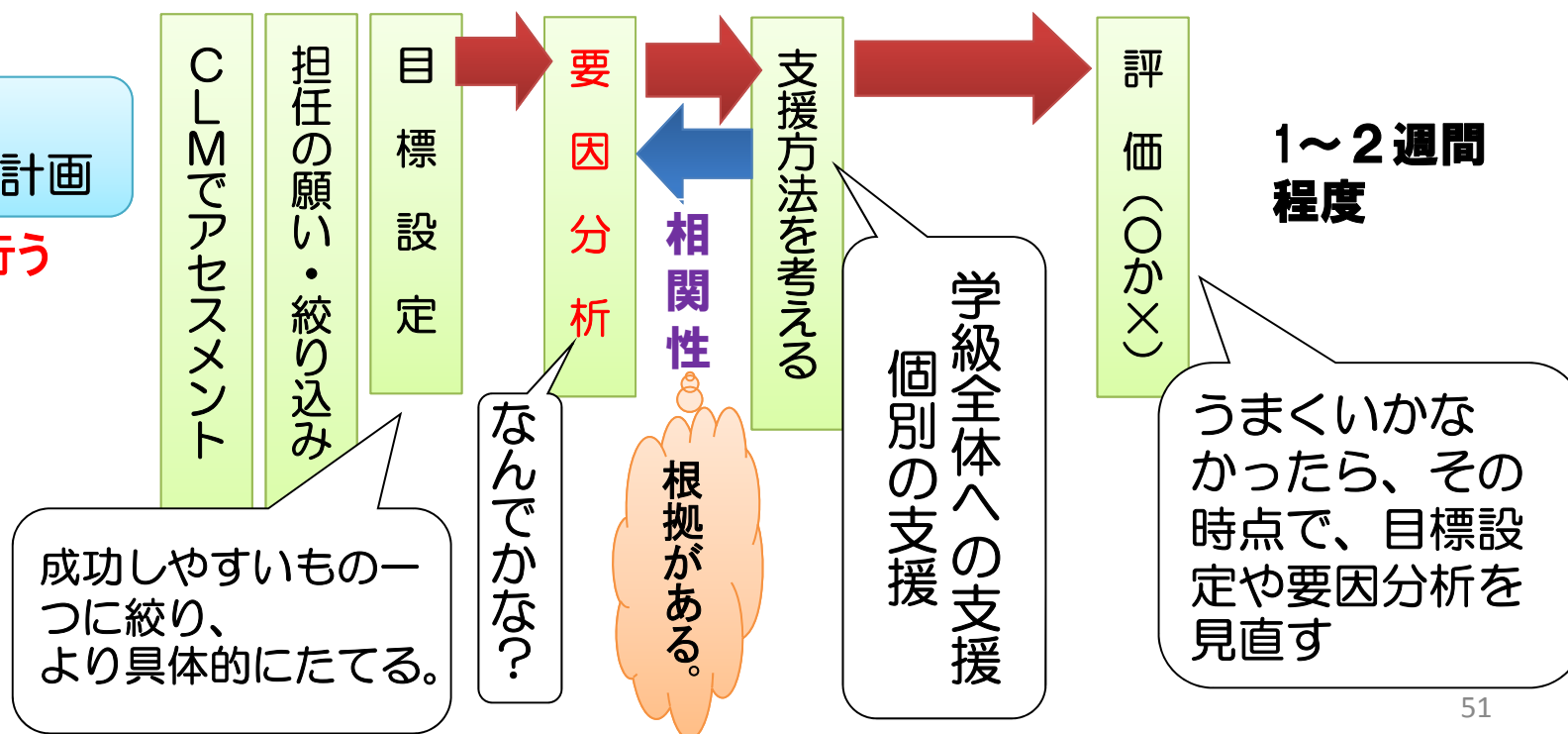
流れの違い

一般的な 個別の指導計画



CLMと 個別の指導計画

繰り返す行う



絞り込まれた項目：(14)友だちとトラブルをよく起こす

1回目

エピソード：授業中立ち歩いて、友だちの文房具を取ってしまう

目標：算数の授業中、座っていることができる

要因や気持ち：

- ・勉強がわからない
- ・課題が終わってしまって退屈

＜クラス環境の整えとクラス全体の支援＞

- ・座席
- ・授業の構造化
 - ①今日の課題を考える
 - ②ペアで伝え合う
 - ③発表する
 - ④練習問題
- ・課題の限界設定を決めておく
(どの程度の課題をさせるか)
- ・クラスのルールを決め、授業のはじめに確認する。

「授業中は、立ち歩けません」

- ・わからない時→手を挙げて先生を待ちます。
- ・終わった時→手を挙げて、先生に点検してもらい、お楽しみプリントをします。

(ルールは、画用紙に明示し、きっちりさせる)

- ・クラス全員でシール評価をする。
- ・チャイムで終わる。

方法

結果・評価

＜個別の支援＞

- ・本人に事前に話をする。
(今までできていることをほめる)
(校長先生にもほめてもらう)
- ・タオルで冷やすなど、体温を下げる。
- ・先生との合図を決めておく。
(OKサインなど)
- ・先生とシール評価をする。
(授業の終わりに、即時評価)
- ・離席しそうになったら、合図をする。

じゅぎょう中は、立ち歩けません

お母さんからのメッセージ

いつ：5/28(火)～6/7(金)
算数の授業中

どこで：教室で

誰が：担任が

誰に：A、クラス全体に

何を：座るための支援

何回：9回

(金) : ~

()

担任の成果

- エピソードを書くことにより、対象児の行動を細かく観察するようになり、今までより更にアセスメントをしっかりと行うようになる。
- 指導計画作成時に要因分析し、要因と支援との相関性を考えるので、根拠のある支援ができるようになる。
- 対象児のためにプランを考えるのであるが、担任自身がいつ・どの場面で・どのように動くのかを書き込むため、担任のための支援のシナリオになり、ぶれのない一貫した指導ができるようになる。
- 学級全体への支援を考えるので、支援が必要な全ての児童の行動改善につながり、対象児も巻き込んだ集団作りができる。

発達連鎖

- 対象児が担任や、他の先生、学級の児童、母親から褒められる機会が増え、自尊感情が高まり、信頼関係につながる。
- モチベーションが上がる支援により、苦手なことでもやる気になり、できるとほめられ、新しいことにも挑戦しようとする良い発達の循環になる。
- 一つの行動が改善されると、その効果が他の行動にも波及し、改善されていく。

「CLMと個別の指導計画」は
幼児期・低学年の支援が効果的

- 発達課題がわかりやすい
- 要因分析がしやすい
- 少しの支援で成功体験ができる
- 子どもの自尊感情が向上しやすい
- 子どもとの信頼関係構築がしやすい
- 保護者との信頼関係が向上する

CLMを活用し、個別の指導計画に取り組むことで

- 保育から教育に支援を引き継ぐツールとなる
- 人材育成によって保育・教育が変わると子どもの行動が変化する

対象児も

学級の
児童も

保護者も

担任も

みんながHAPPY !